

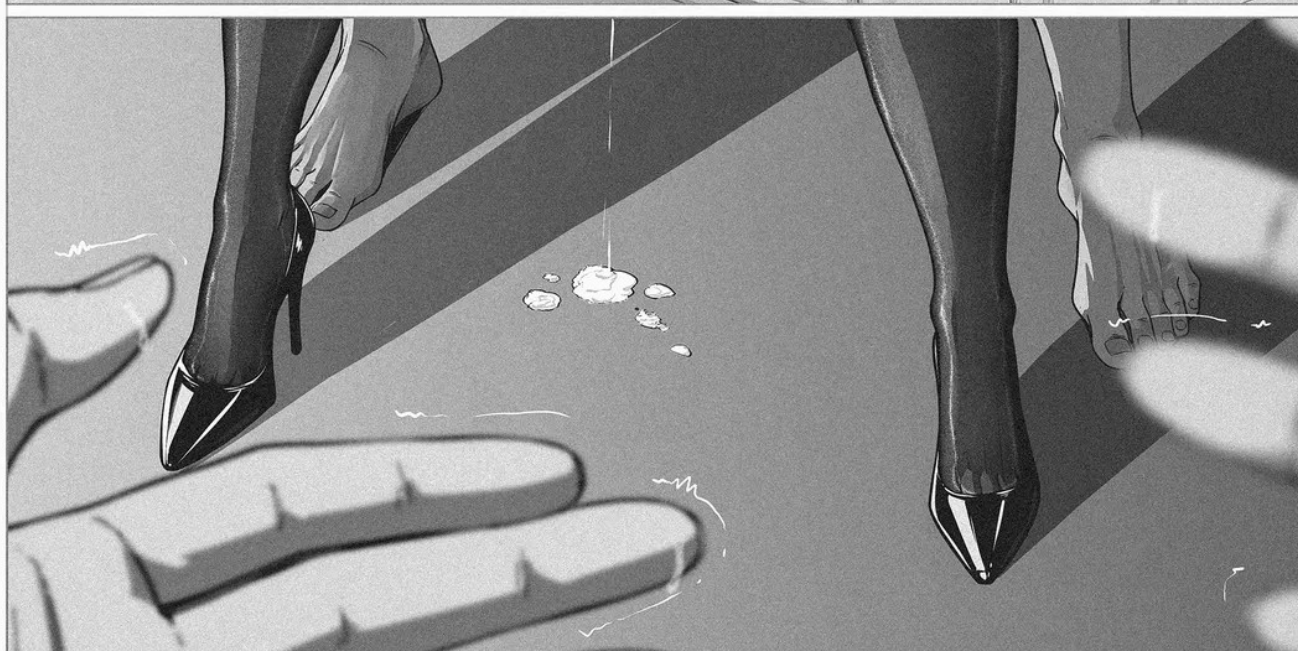
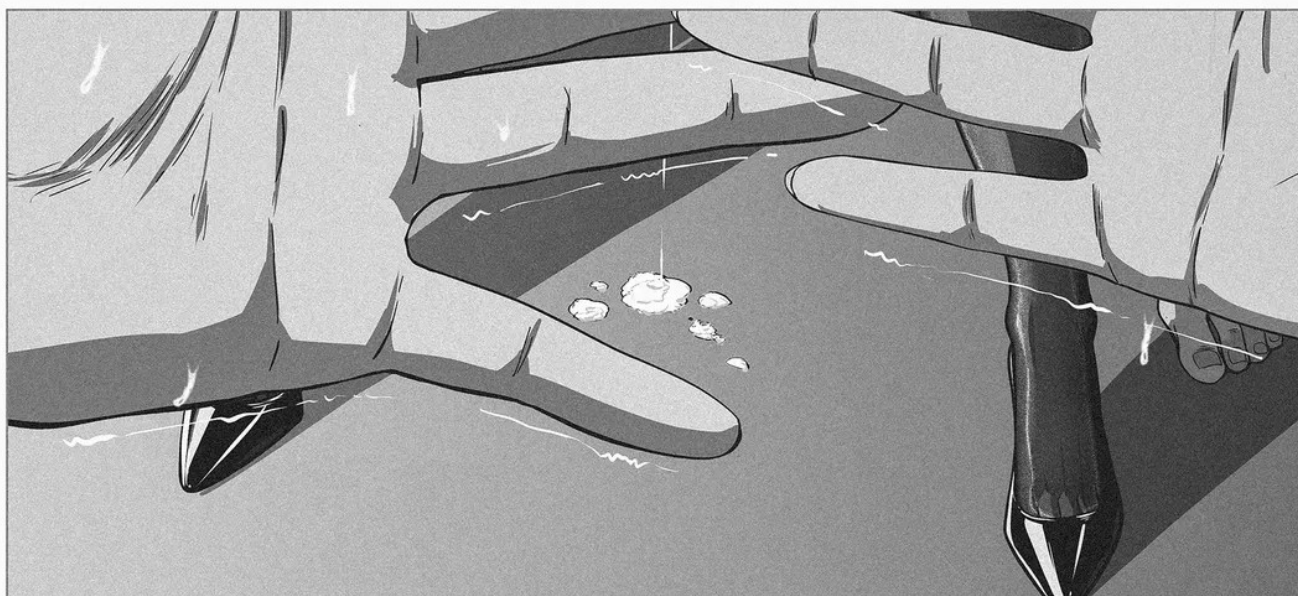


「俺...ほんと、最低だな...」



「俺...ほんと、最低だな...」

Illustrated by daikanki



「 頭等席 」

妻の演目を最前列で観てる俺……ほんと、最低だ。



「頭等席」

妻の演目を最前列で観てる俺……ほんと、最低だ。







おやおや…
まだ挿れてもないのに、
もうトロトロじゃねえか。

さあ…
目の前に旦那もいるし、
ショータイムだ。

ほら、見ろよ。
ちゃんと受け止める。

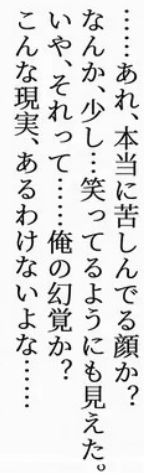
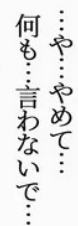
そ…
っ、あぁっ！

んっ！
あぁっ！

まだ挿れたばかりなのに…
こんなに吸いついて…
旦那には無理だろ？

まさか…旦那の前で突かれるの、
そんなに気持ちいいのか？

カカカ…
お前の嫁さん、今じゃ犬みたいに
引っ張られて…腰まで振ってるぜ。
それでも見えるか？



君は「頭等席」に座ってるんだよ？
あれだけ「高いチケット代」
払ったんだから、
ちゃんと見なきゃ損だろ？

おや？旦那様、
なんで顔を背けたの？
こんな「定番の顔」
見逃してもいいの？

ほらほら!!もつと声出せよ、
このビッチが!!
ダンナに聞かせてやれよ、
他の男にやられてるテメエの
だらしねえ声をよ!!

いちばんエロい顔……
ダンナに
ちゃんと見せてやれよ。

誰が止まっていって
言った!?
もつと腰振れよ、
しっかりな!!

そ…
そんな目で見ないで、
あつ…お願い……
だから……

あ、あな…
た……

はあッ

はあッ

「頭等席」 PART.2

妻の演目を最前列で観てる俺…ほんと、最低だ。

【旦那視点 | Fanbox限定版】 PAGE.5

Illustrated by daikanki
daikanki.fanbox.cc



【旦那視点 | Fanbox限定版】

本作は視点によって異なる「もう一つの真実」を描いています。

物語は【旦那視点】と【映画視点】、二つのバージョンで同時に展開します。

PAGE.6

Illustrated by daikanki
daikanki.fanbox.cc



ほら、
持ち主のもとへ
返してやるよ—
ダンナさんにね。

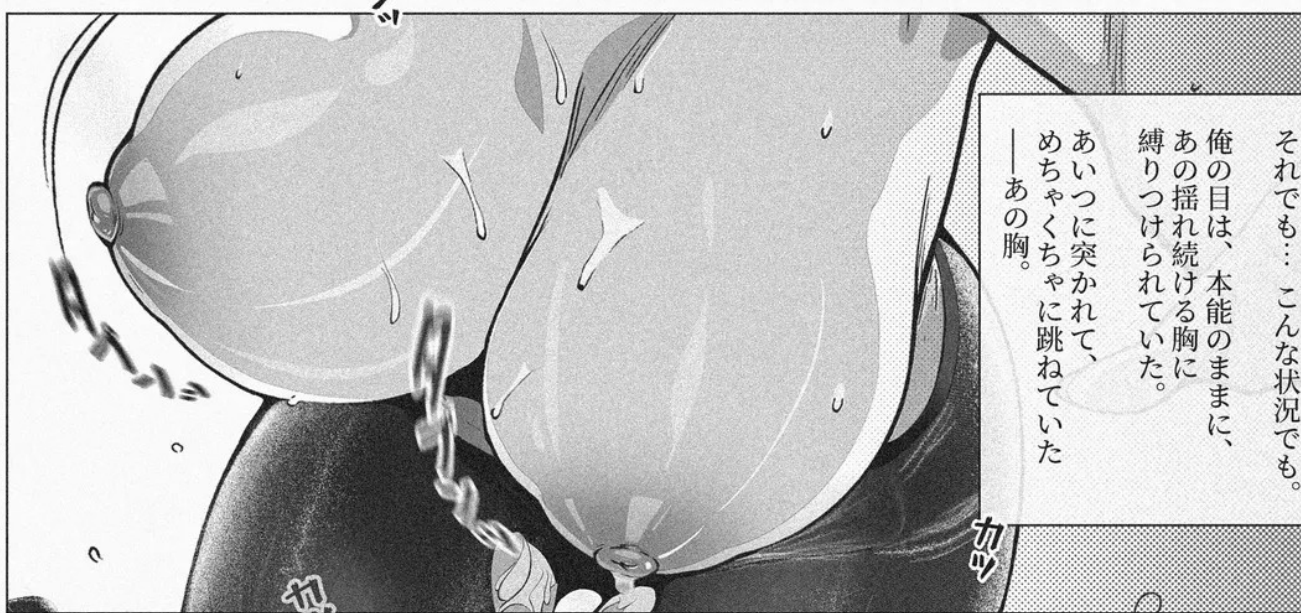
や…っ!!
やだ…
あなた…っ!!

その瞬間、
頭が真っ白になった。
気づいた時には、
両手を伸ばしていた。

ただ本能で、
彼女を……
壊れないように、
丸ごと抱きとめたかった。



我に返った時、
世界はまだあの瞬間に止まっていた。
俺のいちばん大事な人が、
使い古された玩具みたいに、
無造作に投げつけられた。



それでも…こんな状況でも。
俺の目は、本能のままに、
あの揺れ続ける胸に
縛りつけられていた。
あいつに突かれて、
めっちゃくちゃに跳ねていた
—あの胸。



その手は、
まっすぐ俺に伸びてきた。
あの時、
彼女は助けを
求めてたんじゃないか、
そんな気がした。
なのに俺は、
腕を広げながら、
心のどこかで、
次の幕を待っていた。

【旦那視点 | Fanbox限定版】

君は、どっちだ？

Fanboxへようこそ——君も、共犯になってくれ。

PAGE.8

Illustrated by daikanki
daikanki.fanbox.cc

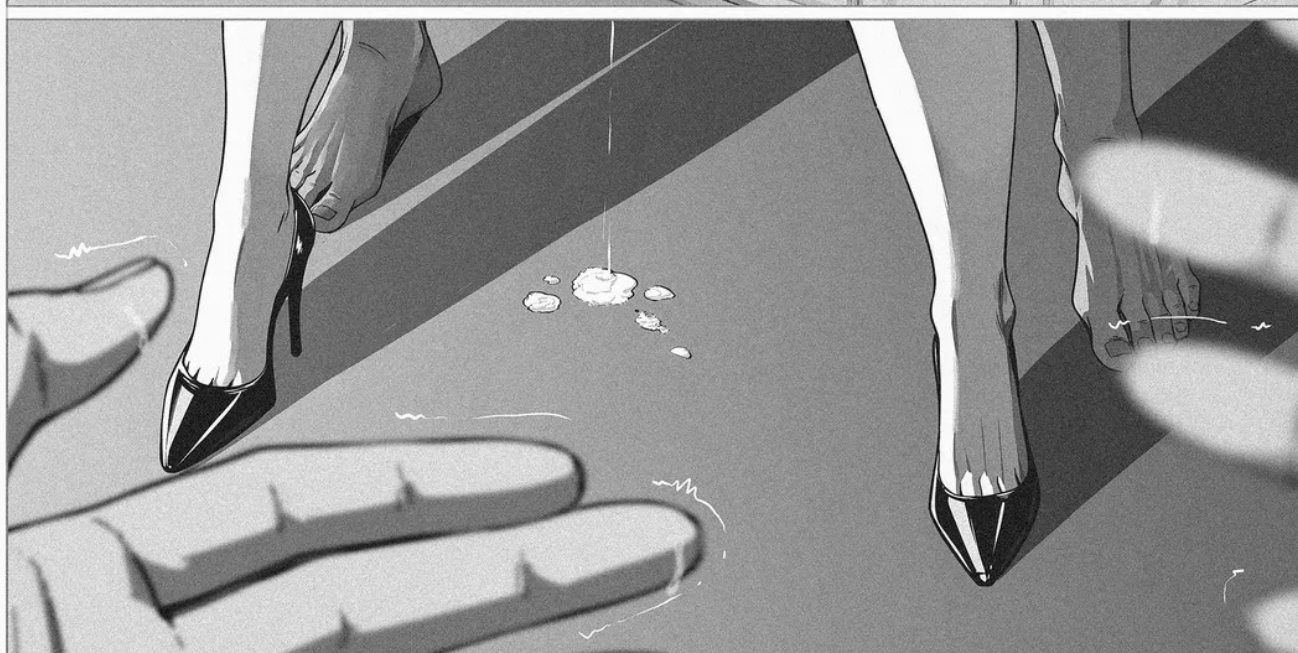
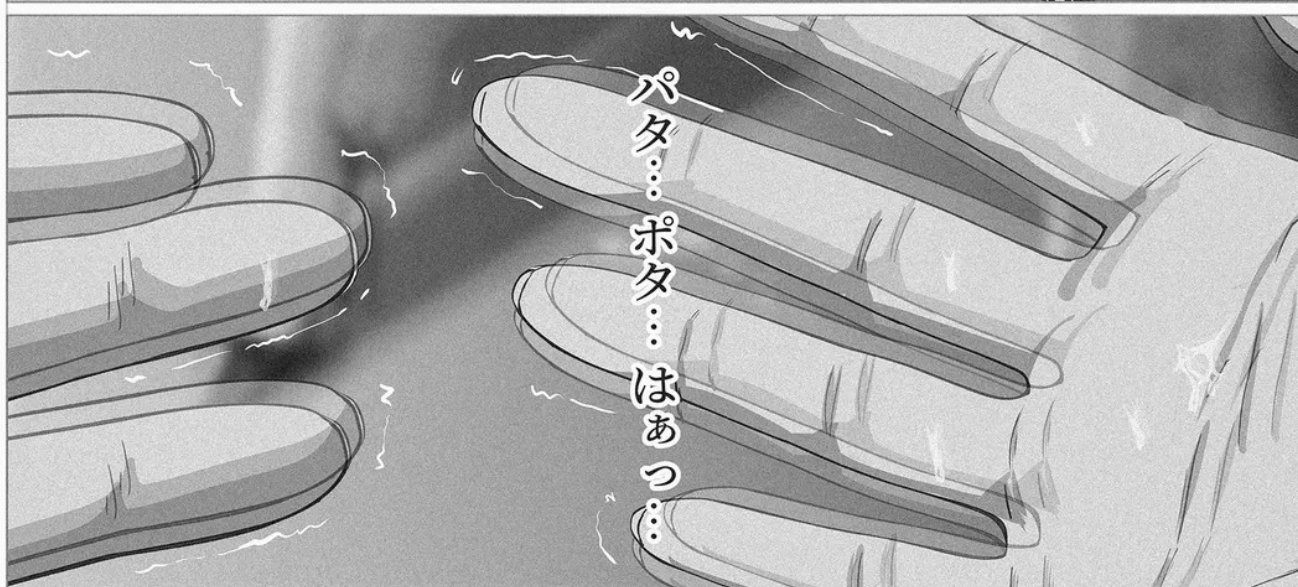
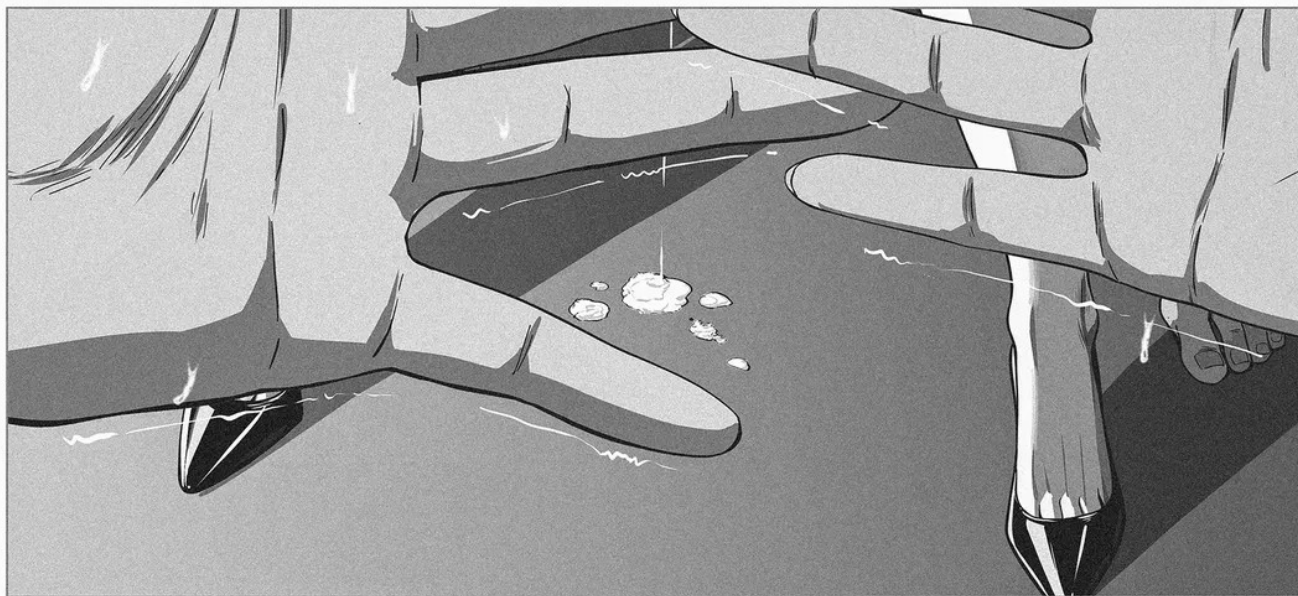


「俺...ほんと、最低だな...」



「俺...ほんと、最低だな...」

Illustrated by daikanki



「 頭等席 」

妻の演目を最前列で観てる俺.....ほんと、最低だ。



「頭等席」

妻の演目を最前列で観てる俺……ほんと、最低だ。





さあ…目の前に旦那もいるし、
ショータイムだ。

おやおや…
まだ挿れてもないのに、
もうトロトロじゃねえか。

んっ！

あぁっ！

そこ…
っ、あぁっ！

ほら、見ろよ。
ちゃんと受け止める。

カカカカカ、
お前の嫁さん、今じゃ犬みたいに
引っ張られて、腰まで振ってるぜ。
それでも見れるか？

…や…やめて…
何も…言わないで…

うっ



おやおや…
まだ挿れてもないのに、
もうトロトロじゃねえか。

さあ…
目の前に旦那もいるし、
ショータイムだ。

ほら、見ろよ。
ちゃんと受け止める。

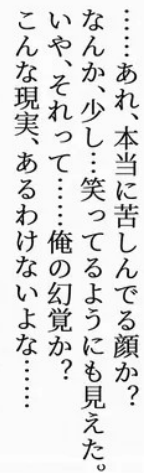
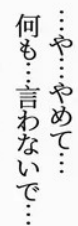
そ…
っ、ああっ！

んっ！
ああっ！

まだ挿れたばかりなのに…
こんなに吸いついて…
旦那には無理だろ？

カカカ…
お前の嫁さん、今じゃ犬みたいに
引っ張られて…腰まで振ってるぜ。
それでも見えるか？

まさか…旦那の前で突かれるの、
そんなに気持ちいいのか？



君は「頭等席」に座ってるんだよ？
あれだけ「高いチケット代」
払ったんだから、
ちゃんと見なきゃ損だろ？

おや？旦那様、
なんで顔を背けたの？
こんな「定番の顔」
見逃してもいいの？

ほらほら!!もつと声出せよ、
このビッチが!!
ダンナに聞かせてやれよ、
他の男にやられてるダメエの
だらしねえ声をよ!!

いちばんエロい顔……
ダンナに
ちゃんと見せてやれよ。

誰が止まっていって
言った!!
もっと腰振れよ、
しっかりな!!

そ…
そんな目で見ないで、
あっ…お願い……
だから……

あ、あな…
た……

はっ

はっ

「頭等席」 PART.2

妻の演目を最前列で観てる俺…ほんと、最低だ。

【旦那視点 | Fanbox限定版】 PAGE.5

Illustrated by daikanki
daikanki.fanbox.cc



【旦那視点 | Fanbox限定版】

本作は視点によって異なる「もう一つの真実」を描いています。

物語は【旦那視点】と【映画視点】、二つのバージョンで同時に展開します。

PAGE.6

Illustrated by daikanki
daikanki.fanbox.cc



ほら、
持ち主のもとへ
返してやるよー
ダンナさんにね。

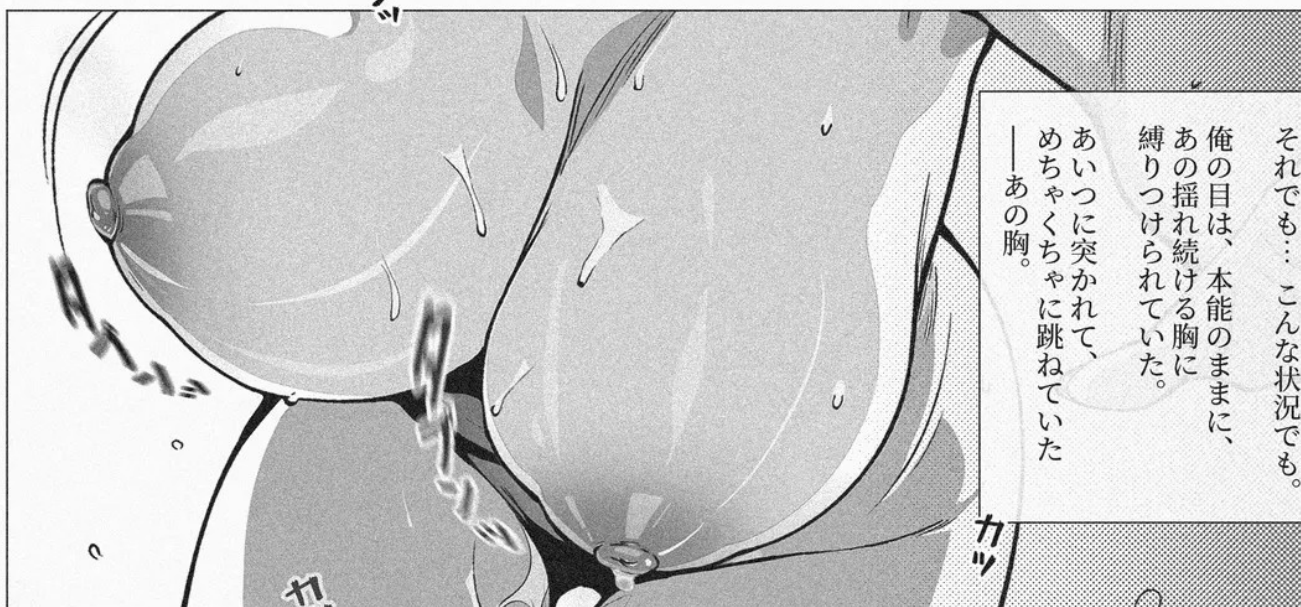
や…っ!!
やだ…
あなた…っ!!

その瞬間、
頭が真っ白になった。
気づいた時には、
両手を伸ばしていた。

ただ本能で、
彼女を……
壊れないように、
丸ごと抱きとめたかった。



我に返った時、
世界はまだあの瞬間に止まっていた。
俺のいちばん大事な人が、
使い古された玩具みたいに、
無造作に投げつけられた。



それでも…こんな状況でも。
俺の目は、本能のままに、
あの揺れ続ける胸に
縛りつけられていた。
あいつに突かれて、
めちゃくちゃに跳ねていた
—あの胸。



その手は、
まっすぐ俺に伸びてきた。
あの時、
彼女は助けを
求めてたんじゃないか、
そんな気がした。
なのに俺は、
腕を広げながら、
心のどこかで、
次の幕を待っていた。

【旦那視点 | Fanbox限定版】

君は、どっちだ？

Fanboxへようこそ——君も、共犯になってくれ。

PAGE.8

Illustrated by daikanki
daikanki.fanbox.cc